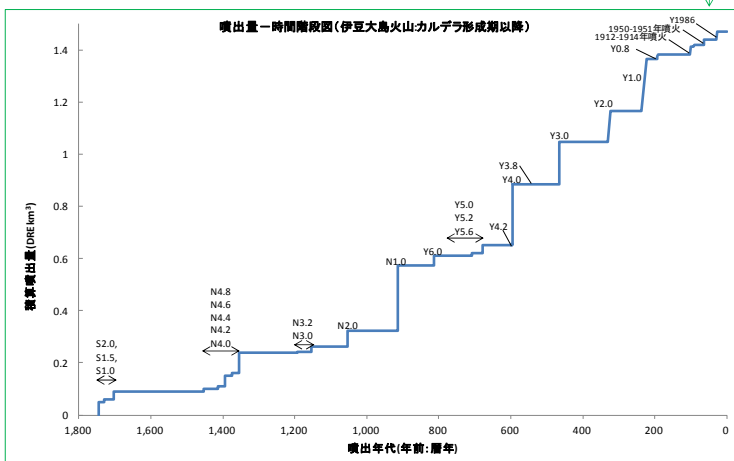
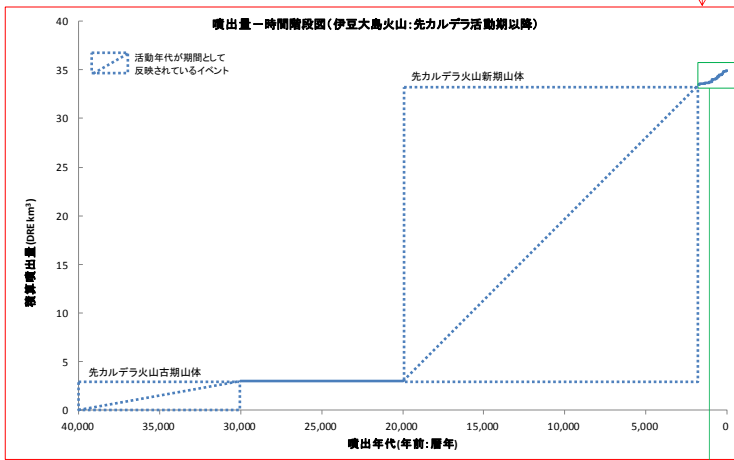
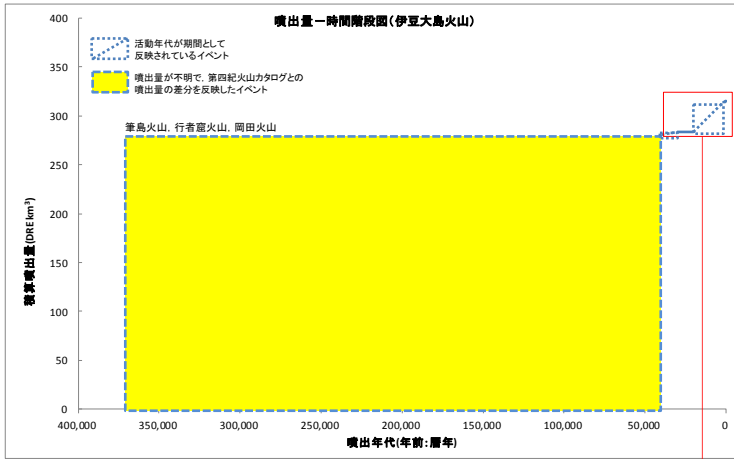


17) 伊豆大島火山



17. 伊豆大島火山

噴出物	年代 (年: 暦年)	噴出量 (DRE km ³)	火山カタログの噴出量
出1900年噴火	24	—	
小規模噴火 (陥没)	26-27	0.00002	
Y1986	27-28	0.03	
小規模噴火	40	0.00001	
小規模噴火	49-50	0.00006	
小規模噴火	55-57	0.00001	
小規模噴火	60-61	0.0003	
1950-1951年噴火	63-64	0.02	
噴火	74	0.0003	
小規模噴火	75	0.0002	
小規模噴火	76	0.00004	
小規模噴火	79-81	0.0001	
中規模噴火	91-92	0.006	
小規模噴火	95	0.0001	
小規模噴火	99	0.0001	
1912-1914年噴火	100-102	0.03	
小規模噴火	104	0.0001	
中規模噴火	137-138	0.001	
中規模噴火	190-192	0.008	
Y0.8	193	0.008	
Y1.0	222-237	0.2	
Y2.0	324-330	0.12	
Y3.0	464	0.16	
Y3.8	543	0.003	
Y4.0	594	0.23	
Y4.2	597	0.001	
Y5.0	679	0.03	
Y5.2	707	0.01	
Y5.6	769	0.0003	
Y6.0	814	0.04	
N1.0	914	0.25	
N2.0	1054	0.06	
N3.0	1154	0.02	
N3.2	1192	0.002	
N4.0	1354	0.08	
N4.2	1374	0.01	
N4.4	1394	0.04	
N4.6	1414	0.01	
N4.8	1454	0.01	
S1.0	1704	0.03	
S1.5 (S [*])	1729	0.01	
S2.0	1744	0.05	
○ (オー) 1層層			
○ 2層層			
○ 3層層			
○ 10層層			
○ 15層層			
○ 21層層			
○ 35層層			
○ 40層層			
○ 41層層			
○ 47層層			
○ 50層層			
○ 53層層			
○ 55層層			
○ 58層層			
○ 61層層			
○ 64層層			
～○ 95層層			
噴出 泉津層群	30,000-40,000	3.04	
隼島火山	40,000-	(280.49)	
行者窟火山	370,000		
岡田火山			

火山カタログの噴出量: 315.4 DRE km³

○: 火山カタログと文献の体積の差分
 ※1: 層序関係から年代を推定して反映

第 17-1 図 噴出量-時間階段図 (伊豆大島火山)

第17-2表(1) 活動履歴帳票(伊豆大島火山)

17. 伊豆大島火山		データベース(09)等による年代・体積											
噴火史の概略		主要参考文献 川辺(1998)、小山・早川(1996)											
活動期	細分・別称	噴出物	マグマ種類	噴火様式	年代	根拠	引用	信頼度	重要注	根拠	引用	信頼度	
								×10 ³ kg					
								小規模					
								引用					
								8.3					
								58.3					
								0.029km ³					
								0.35km ³					
								0.0007km ³					
								0.0008km ³					
								0.0001km ³					
								VEI1					
								極微量					
								0.0029km ³					
								0.0029km ³					
								79					
								0.02km ³					
								0.027km ³					
								0.0003km ³					
								0.0002km ³					
								0.0004km ³					
								0.0002km ³					
								0.0001km ³					
								0.0062km ³					
								0.0064km ³					
								0.0001km ³					
								0.0001km ³					
								65					
								0.037km ³					
								0.033km ³					
								0.0001km ³					
								0.0009km ³					
								0.003km ³					
								0.008km ³					
								0.01km ³					
								153.4					
								0.065km ³					
								0.2km ³					
								0.06km ³					
								104.1					
								0.029km ³					
								0.02km ³					
								0.12km ³					
								0.04km ³					
								48.9					
								0.014km ³					
								0.019km ³					
								0.16km ³					
								8					
								0.003km ³					
								226.1					
								0.0822km ³					
								0.0008km ³					
								0.23km ³					
								0.06km ³					
								2					
								0.009km ³					
								79					
								0.04km ³					
								0.006km ³					
								0.03km ³					
								0.04km ³					
								15.2					
								0.077km ³					
								0.01km ³					
								0.6					
								0.009km ³					
								102.3					
								0.022km ³					
								0.04km ³					
								0.03km ³					
								698.3					
								0.1166km ³					
								0.00054km ³					
								0.29km ³					
								0.25km ³					
								165.6					
								0.054km ³					
								0.06km ³					
								0.06km ³					
								42.2					
								0.032km ³					
								0.03km ³					
								0.01km ³					
								15.6					
								0.022km ³					
								0.01km ³					
								190.4					
								0.109km ³					
								0.06km ³					
								0.04km ³					
								21.3					
								0.009km ³					
								93.6					
								0.04km ³					
								0.09km ³					
								35.3					
								0.07km ³					
								0.02km ³					
								31.5					
								0.07km ³					
								0.02km ³					
								76.5					
								0.034km ³					
								0.02km ³					
								0.04km ³					
								15					
								0.009km ³					
								62.1					
								0.001km ³					
								0.016km ³					
								0.1km ³					
								0.02km ³					
								0.001km ³					
								0.001km ³					
後カルデラ 噴石丘及び 溶岩流	AD1900年噴火	-	-	水蒸気爆発：降下火砕物	AD1900	近代観測	+7	◎	小規模	-	-	-	
	小規模噴火(陥没)	-	-	降下火砕物	AD1987-1988	引用(近代観測)	+7	◎	引用	-	+7	△	
	Y1986	玄武岩～ テフライト	-	溶岩流、降下スコリア、火山毛	AD1986-1987 AD1986	近代観測 近代観測	+1 +2	◎ ◎	8.3 58.3 0.029km ³ 0.35km ³	早川法(中フウ) 携来米記載(総量) 引用 GIS算出体積	+2 +1 +7 +8	△ △ △ △	
	小規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1974	引用(近代観測)	+7	◎	0.0007km ³ 0.0008km ³	引用 引用	+7 +8	△ △	
	小規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1964-1965	引用(近代観測)	+8	◎	0.0001km ³	引用	+8	△	
	小規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1957-1958 AD1957-1959	引用(近代観測) 引用(近代観測)	+7 +8	◎ ◎	VEI1 極微量	引用 引用	+7 +8	△ △	
	小規模噴火	-	-	降下火砕物、溶岩流	AD1953-1954	引用(近代観測)	+7	◎	0.0029km ³ 0.0029km ³	引用 引用	+7 +8	△ △	
	1950-1951年噴火	玄武岩	-	降下火砕物、溶岩流	AD1950-1951	引用(近代観測)	+2	◎	79 0.02km ³ 0.027km ³	引用(検存しない) 引用 引用	+2 +7 +8	△ △ △	
	小規模噴火	-	-	溶岩流	AD1940	引用(近代観測)	+8	◎	0.0003km ³	引用	+8	△	
	小規模噴火	-	-	溶岩流	AD1939	引用(近代観測)	+8	◎	0.0002km ³	引用	+8	△	
小規模噴火	-	-	溶岩流	AD1938	引用(近代観測)	+7	◎	0.0004km ³ 0.0002km ³	引用 引用	+7 +8	△ △		
小規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1933-1935	引用(近代観測)	+8	◎	0.0001km ³	引用	+8	△		
中規模噴火	-	-	降下火砕物、溶岩流	AD1922-1923	引用(近代観測)	+7	◎	0.0062km ³ 0.0064km ³	引用 引用	+7 +8	△ △		
小規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1919	引用(近代観測)	+8	◎	0.0001km ³	引用	+8	△		
小規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1915	引用(近代観測)	+8	◎	0.0001km ³	引用	+8	△		
1912-1914年噴火	-	-	降下火砕物、溶岩流	AD1912-1914	引用(近代観測)	+2	◎	65 0.037km ³ 0.033km ³	引用(検存しない) 引用 引用	+2 +7 +8	△ △ △		
小規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1910	引用(近代観測)	+8	◎	0.0001km ³	引用	+8	△		
中規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1876-1877	引用(古文書)	+7	◎	0.0009km ³ 0.003km ³	引用 引用	+7 +8	△ △		
中規模噴火	-	-	降下火砕物	AD1822-1824	引用(古文書)	+7	◎	0.008km ³	引用	+7	△		
Y0.8	-	-	降下火山灰	AD1821	堆積速度の内挿	+2	▲	20.3 0.008km ³ 0.01km ³	早川法(中フウ) 引用 GIS算出体積	+2 +7 +9	△ △ △		
Y1.0	玄武岩	-	溶岩流、降下火砕物	AD1777-1792	古文書解析	+1	◎	153.4 0.065km ³ 0.2km ³ 0.06km ³	早川法(中フウ) 分年から推定(1929) 分年から推定(1929) 引用 GIS算出体積	+2 +3 +3 +7 +9	△ △ △ △ △		
Y2.0	玄武岩	-	溶岩流、降下火砕物	AD1684-1690	古文書解析	+1	◎	104.1 0.029km ³ 0.02km ³ 0.12km ³ 0.04km ³	早川法(中フウ) 分年から推定(1929) 分年から推定(1929) 引用 GIS算出体積	+2 +3 +3 +7 +9	△ △ △ △ △		
Y3.0	玄武岩	-	溶岩流、降下火砕物	AD1552 AD1596 AD1550	古文書解析 堆積速度の内挿 古記録、 ¹⁴ C 遡年、層序	+1 +2 +3	◎ ◎ ◎	48.9 0.014km ³ 0.019km ³ 0.16km ³	早川法(中フウ) 分年から推定(1929) 分年から推定(1929) 引用	+2 +3 +3 +7	△ △ △ △		
Y3.8	-	-	降下火山灰	AD1471	堆積速度の内挿	+2	▲	8 0.003km ³	早川法(中フウ)<				

第17-2表(1) 続き

先カルデラ 火山新期山体 (伊豆大島層群 O1-95) 約2万年前~*	O(オ-)1部層~	玄武岩 (大部分)	降下火砕物、溶岩流など	1719±90yBP	引用(°C年代)	*1	◎	不明	40 km ² (引用)	—	—	—				
	O2部層			1830±60yBP	°C年代	*1	◎	不明		—	—	—				
	O3部層			3430±100yBP	引用(°C年代)	*1	△	不明		—	—	—				
	O10部層			2800-3000yBP	引用	*6	△	不明		引用	*7	△				
	O15部層			2420±150yBP	引用(°C年代)	*1	◎	不明		—	—	—				
	O21部層			3150±90yBP	引用(°C年代)	*1	◎	不明		—	—	—				
	O35部層			5520±370yBP	引用(°C年代)	*1	◎	不明		—	—	—				
	O40部層			5490±220yBP	引用(°C年代)	*1	◎	不明		—	—	—				
	O41部層			6330±50yBP	引用(°C年代)	*1	◎	不明		—	—	—				
	O47部層			6100±70yBP	°C年代	*1	◎	不明		—	—	—				
	O50部層			7780±160yBP	引用(°C年代)	*1	◎	不明		—	—	—				
	O53部層			8350±160yBP	引用(°C年代)	*6	◎	不明		—	—	—				
	O55部層			9720±170yBP	引用(°C年代)	*1	◎	不明		—	—	—				
	O58部層			10,950±320yBP	引用(°C年代)	*1	△	不明		—	—	—				
	O61部層			9450±200yBP	引用(°C年代)	*6	◎	不明		—	—	—				
	O64部層			9360±180yBP	引用(°C年代)	*6	◎	不明		—	—	—				
	~O95部層			9480±260yBP 10,100±210yBP 13,740±390yBP 13,060±130yBP 不明	°C年代 引用(°C年代) °C年代 引用(°C年代) —	*1 *1 *1 *1 —	◎ ◎ ◎ ◎ —	不明 不明 不明 不明 不明		— — — — —	— — — — —	— — — — —				
	先カルデラ 火山古期山体			泉津層群	玄武岩	高層噴火、火砕岩、 溶岩流、降下火砕物	3-4万年前 21,230±720yBP 39,000-5500-3200yBP 33000, 341600yBP	不明 °C年代 引用(°C年代) 引用		*1 *1 *1 *6	△ △ ◎ △	不明 不明 不明 不明	4km ²	引用	*8	△
	(浸食された 火山) 0.37Ma~**1			筆島火山	玄武岩	溶岩流、火砕岩、岩脈	12.4Ma, 0.46±0.60 0.35±0.62, 1.32±1.01 1.45±0.91, 0.29±0.22 0.14±0.08Ma	引用(K-Ar)		*1	◎	不明	—	—	—	—
行者隠火山		玄武岩	溶岩流、火砕岩	0.98±0.50Ma	引用(K-Ar)	*1	◎	不明	—	—	—	—				
開田火山		玄武岩~ 安山岩	溶岩流、火砕岩	10.42±0.41±0.39 0.95±0.18, 0.15±0.39 0.18±0.30, 0.31±0.19 0.35±0.19, 0.35±0.27 0.42±0.21, 0.42±0.49 0.37±0.06Ma	引用 (K-Ar年代)	*1	◎	不明	—	—	—	—				

※1: 第四紀火山カタログ委員会編(1999)を引用
※2: 文献中の図表等から読み取った値
注) 体積が算出されている場合は別途単位を付記した。
更にDREに換算されている場合は斜体で表記した。

* 放射性年代 ◎ 査証付録文 ○ 誤差範囲不明
△ 層序と矛盾、材料・測定に疑問、換算未記載
* 堆積物の内層、時間間隔を均等分配、層序
● 上下層が放射性年代で決定 ▲ 上下層が換算決定
* 古文書断片 年代推定 ◎

信頼度
◎○△

引用文献												
*1: 川辺 祐久 (1998) : 伊豆大島火山地質図、火山地質図10、地質調査所。												
*2: 小川真人、幸川由紀夫 (1996) : 伊豆大島火山カルデラ形成以降の噴火史、地学雑誌、105、2、pp.133-162。												
*3: 中村 一明 (2002) : 伊豆大島、自然名所ガイド⑤、国土と教育、13、3、pp.26-31。												
*4: 川辺 祐久 (2012) : 新たに得られた伊豆大島火山新期大島層群噴火堆積物の放射性炭素年代、地質調査研究報告、63、11/12、pp.283-289。												
*5: 山元孝広 (2006) : 伊豆大島火山、カルデラ形成期の火砕物密度堆積物：差木地層S2部層の層所・岩層・年代の再検討、火山、51、4、pp.257-271。												
*6: 一色直弘 (1984) : 大島地域の地質、地域地質研究報告 5万分の1図幅、133p。												
*7: 気象庁 編 (2013) : 38、伊豆大島、日本活火山総覧。												
*8: Aramaki, S., Oshima, O., Uto, K. and Kawanabe, Y. (1992) : Izu-Oshima and Hakone volcanoes. 29th IGC field trip, C13.												
*9: 須藤 茂、猪股隆行、佐々木 寿、向山 栄 (2007) : わが国の降下火山灰データベース、地質調査研究報告、58、9/10、pp.261-321。												

第 17-2 表 (2) 活動履歴帳票 (伊豆大島火山)

17. 伊豆大島火山

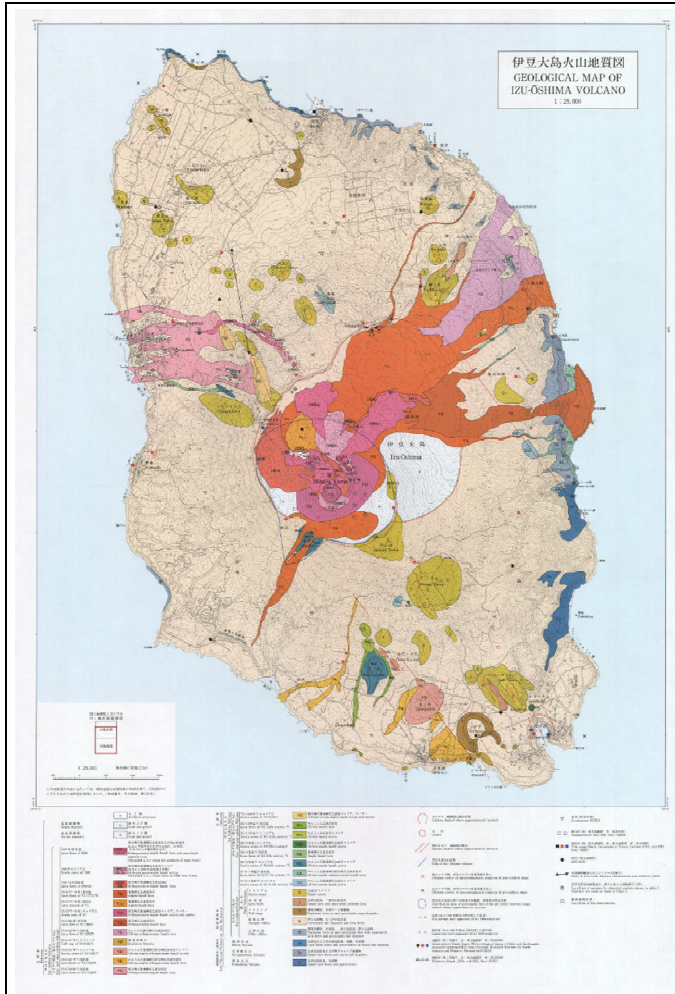


図 伊豆大島火山の地質図(川辺, 1998)

表 伊豆大島火山における層序表(小山・早川, 1996)

表 2 伊豆大島のカルデラ外側斜面に分布するテフラ (カルデラ形成以降に噴出したもののみ).
Table 2 List of tephra.

Tephra	Age (A.D.)	Mass (10 ³ kg)	Magnitude	Type	Correlation
Y1986	1986	8.3	2.9	2	
Y0.8	1821	20.3	3.3	3	
Y1.0 ash		136.9	4.1		
Y1.0 scoria		14.5	3.2		
Y1.0 total	1777	153.4	4.2	1	Y ₁
Y2.0 ash		101.3	4.0		
Y2.0 scoria		2.6	2.4		
Y2.0 total	1684	104.1	4.0	1	Y ₂
Y3.0 ash		45.0	3.7		
Y3.0 scoria		3.9	2.6		
Y3.0 total	1586	48.9	3.7	1	Y ₃
Y3.8	1471	8.0	2.9	3	Y ₄
Y4.0 ash		199.0	4.3		
Y4.0 scoria		27.1	3.4		
Y4.0 total	1446	226.1	4.4	1	Y ₄
Y4.2	1417	2.0	2.3	3	Y ₄
Y5.0 ash		78.0	3.9		
Y5.0 scoria		1.0	2.0		
Y5.0 total	1320	79.0	3.9	1	Y ₅
Y5.2	1307	13.2	3.1	2	Y ₅
Y5.6	1245	0.6	1.8	3	
Y6.0 ash		80.4	3.9		
Y6.0 scoria M		5.5	2.7		
Y6.0 scoria L		16.4	3.2		
Y6.0 total	1183	102.3	4.0	1	Y ₆
N1.0	1057	698.3	4.8	1	N ₁
N2.0	869	165.6	4.2	1	N ₂
N3.0	838	42.2	3.6	3	N ₃
N3.2	822	15.6	3.2	2	N ₁
N4.0 ash		88.1	3.9		
N4.0 scoria M		38.7	3.6		
N4.0 scoria L		63.6	3.8		
N4.0 total	713	190.4	4.3	1	N ₄
N4.2	700	21.3	3.3	2	N ₄
N4.4	675	93.6	4.0	2	N ₄
N4.6	650	35.3	3.5	2	N ₄
N4.8	625	31.5	3.5	2	N ₄
S1.0 ash		73.2	3.9		
S1.0 scoria		3.2	2.5		
S1.0 total	600	76.5	3.9	1	S ₁
S1.5 ash		12.8	3.1		
S1.5 scoria		2.2	2.3		
S1.5 total	575	15.0	3.2	1	S'
S2.0 ash		59.9	3.8		
S2.0 scoria		2.2	2.3		
S2.0 total	550	62.1	3.8	1	S ₂

テフラ名、推定噴火年代、噴出量、噴火マグネチュード、噴火の種類(本文参照)、Nakamura (1960, 1964)のメンバーとの対比をそれぞれ示した。
Ages are loeochronometric ages, which were calculated by interpolation or extrapolation, assuming that the deposition rate of loess is constant between the reference horizons (surface, Y1.0, Y2.0, and N3.0), of which ages are known. Mass values are in 10³ kg. Magnitude is the eruptive magnitude (M), which is defined by $M = \log m - 7$ (Hayakawa, 1993), where m is the mass of magma erupted in kg. Type is the type of eruption (see Fig. 7). Correlation of each tephra with the member defined by Nakamura (1960, 1964) is shown with a symbol for the member.

表 伊豆大島火山における層序表(中村, 2002)

表 1 大島火山の噴出物と活動史

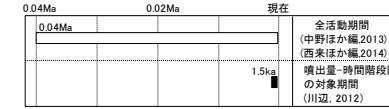
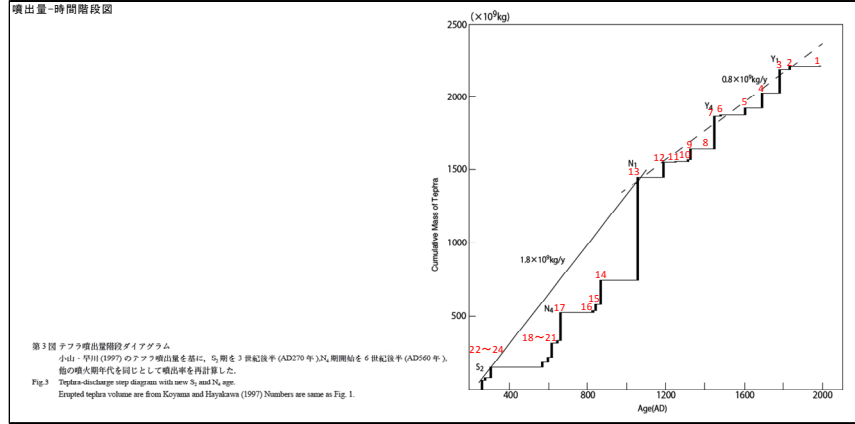
1	2 噴火開始年代	3 ($\times 10^{10}$ g)	4 ($\times 0.01$ km ²)	側火口の活動
Y ₁	1777	65	7.3(0.8)	三原山時代 ↑ 側噴火盛ん ↓
Y ₂	1684	35	4.9(2.0)	
Y ₃	1550±	42	3.3(1.9)	
Y ₄	1420±	65	8.3(0.08)	
Y ₅	1335±	51	4.6(0.6)	
Y ₆	1200±	44	2.2	
N ₁	1100±	76	11.7(0.004)	
N ₂	960±	55	5.4	
N ₃	860±30	42	3.2	
N ₄	750±100	92	10.9	
S ₁	650±150	34	3.4	
S ₂	550±200	24	7.7(1.6)	
B. P. 2 万年以上				先カルデラ時代

1. 噴出物の層序 2. 推定される噴火の開始時期(西暦) 3. 推定される全噴出物量 4. そのうちで外輪山腹にあるもの、()内は溶岩流

第17-3表 既存文献における噴出量-時間階段図 (伊豆大島火山)

17. 伊豆大島火山

引用文献
川辺 (2012)



噴出量-時間階段図中の年代値 (一覧表)
(小山・早川, 1996より引用)

第3図 噴出量-時間階段図中の年代値 (一覧表)
(小山・早川, 1996より引用)

Age (AD)	Age (Ma)	Mass (10 ⁹ kg)	Type	Source
2200	0.0022	10	S ₂	1996
1800	0.0018	20	N ₁₇	1996
1500	0.0015	50	N ₁₅	1996
1200	0.0012	100	Y ₄	1996
1000	0.0010	150	Y ₃	1996
800	0.0008	200	Y ₁	1996
600	0.0006	300	Y ₁	1996
400	0.0004	400	Y ₁	1996
200	0.0002	500	Y ₁	1996
0	0.0000	500	Y ₁	1996

テフラも、確定噴火年代、噴出量、噴火マゼニエード、噴火の規模 (年次噴出量) (Matsuzawa, 1990, 1994) のシナリオの対比を再考した。 ages are uncalibrated ages, which were calculated by interpolation or extrapolation, assuming that the deposition rate of tephra is constant between the reference horizons (surface, Y1, Y3, and N15), of which ages are known. Mass values are in 10⁹ kg. Magnitude is the negative magnitude (M), which is defined by $\log_{10}(m)$ (Hayakawa, 1995), where m is the mass of tephra erupted in kg. Type is the type of eruption (see Fig. 1). Correlation of each tephra with the number obtained by Matsuzawa (1990, 1994) is shown with a symbol for the number.

No	噴出物名称	噴火様式	マグマ種類	年代	根拠	質量 (× 10 ⁹ kg)	根拠	備考
1	Y1986	溶岩流、降下スコリア、火山毛	—	AD1986	近代観測結果	8.3	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
2	Y0.8	降下火山灰	—	AD1821	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	20.3	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
3	Y1.0	溶岩流、降下火砕物	—	AD1777	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	153.4	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
4	Y2.0	溶岩流、降下火砕物	—	AD1684	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	104.1	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
5	Y3.0	溶岩流、降下火砕物	—	AD1596	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	48.9	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
6	Y3.8	降下火山灰	—	AD1471	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	8	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
7	Y4.0	溶岩流、降下火砕物	—	AD1446	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	226.1	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
8	Y4.2	降下火山灰	—	AD1417	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	2	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
9	Y5.0	降下火砕物	—	AD1320	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	79	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
10	Y5.2	降下スコリア	—	AD1307	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	13.2	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
11	Y5.6	降下火山灰	—	AD1245	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	0.6	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
12	Y6.0	降下火砕物	—	AD1183	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	102.3	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
13	N1.0	溶岩流、降下火砕物, スコリア丘	—	AD1057	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	698.3	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
14	N2.0	降下火砕物	—	AD869	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	165.6	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
15	N3.0	降下火砕物, 爆発角礫岩	—	AD838	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	42.2	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
16	N3.2	降下スコリア	—	AD822	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	15.6	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	体積へ換算必要
17	N4.0	降下火砕物	—	AD660	¹⁴ C年代測定, 層序(階段図から採取)	190.4	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	年代: AD713(小山・早川, 1996), 体積へ換算必要
18	N4.2	降下スコリア	—	AD640	¹⁴ C年代測定, 層序(階段図から採取)	21.3	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	年代: AD700(小山・早川, 1996), 体積へ換算必要
19	N4.4	降下火砕物	—	AD620	¹⁴ C年代測定, 層序(階段図から採取)	93.6	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	年代: AD675(小山・早川, 1996), 体積へ換算必要
20	N4.6	降下スコリア	—	AD600	¹⁴ C年代測定, 層序(階段図から採取)	35.3	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	年代: AD650(小山・早川, 1996), 体積へ換算必要
21	N4.8	降下スコリア	—	AD560	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	31.5	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	年代: AD625(小山・早川, 1996), 体積へ換算必要
22	S1.0	降下火砕物	—	AD310	¹⁴ C年代測定, 層序(階段図から採取)	76.5	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	年代: AD600(小山・早川, 1996), 体積へ換算必要
23	S1.5	降下スコリア	—	AD285	¹⁴ C年代測定, 層序(階段図から採取)	15	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	年代: AD575(小山・早川, 1996), 体積へ換算必要
24	S2.0	降下スコリア, 岩屑なだれ	—	AD270	¹⁴ C年代測定, 層序, 古文書解析	62.1	引用(小山・早川, 1996: 早川法)	年代: AD550(小山・早川, 1996), 体積へ換算必要

第17-4表 収集文献リスト（伊豆大島火山）

17 伊豆大島火山

No	著者	発行年	題名	雑誌名	記載事項の有無										備考
					噴出量- 時間 階段図	噴出量 (体積)	方法	活動 年代	方法	層序	噴出物 分布	噴火 様式	マグマ 特性	その他	
17-a	Aramaki, S.	1992	Izu-oshima and Hakone volcanoes	29th IGC field trip C13	○ (●, ■)	○	c	○	D	○	○	○	○	-	
17-b	一色直記	1984	大島地域の地質	地域地質研究報告 5万分の1地質図幅	x	○	e	○	A, B, C, D	○	○	○	○	-	
17-c	上杉 隆, 新井和範, 木越邦彦	1994	伊豆大島火山千波崎の地層切断面露頭群のテフラ	第四紀研究	x	x	-	○	D, F	○	x	x	x	-	
17-d	久野 久	1958	大島火山の地質と岩石	火山	x	x	-	○	D, F	x	○	x	○	-	
17-e	山元孝広	2006	伊豆大島火山, カルデラ形成期の火砕物密度流堆積物: 差木地層S2部層の層序・岩相・年代の再検討	火山	x	○	a	○	A, D (¹⁴ C)	○	○	○	x	-	
17-f	小山真人, 早川由紀夫	1996	伊豆大島火山カルデラ形成以降の噴火史	地学雑誌	○ (●)	○	a	○	B, C, D	○	○	○	x	-	
17-g	川辺禎久	1992	伊豆大島火山の地質 側火山について	日本火山学会 講演予稿集	x	x	-	x	-	x	○	x	x	-	
17-h	川辺禎久	1998	伊豆大島火山地質図	火山地質図10	x	○	e	○	B, C, D	○	○	○	○	-	
17-i	川辺禎久	2008	伊豆大島火山新期大島層群噴火年代の再検討	日本火山学会 講演予稿集	x	x	-	○	A (¹⁴ C)	x	x	x	x	-	
17-j	川辺禎久	2012	新たに得られた伊豆大島火山新期大島層群噴火堆積物の放射性炭素年代	地質調査研究報告	◎ (●)	x	-	○	A (¹⁴ C)	○	x	x	x	-	階段図: 小山・早川 (1996)を修正
17-k	大森昌衛 編	1986	日本の地質3 関東地方	日本の地質	x	x	-	○	A, F (¹⁴ C)	○	○	x	x	-	
17-l	日本地質学会 編	2008	日本地方地質誌3 関東地方	日本地方地質誌	x	○	e	○	C	○	○	x	x	-	
17-m	中村一明	1963	伊豆大島火山の噴火史	科学	x	○	e	○	A, C, D (¹⁴ C)	○	○	○	x	-	
17-n	Nakamura, K.	1964	36. Volcano-Stratigraphic Study of Oshima volcano, Izu.	Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo	○	○	a	○	B, D	○	○	○	x	-	
17-o	中村一明	2002	伊豆大島	国土と教育 自然名所ガイド⑥	x	○	e	○	F	○	○	○	x	-	
17-p	中田節也, 渡辺秀文, 藤井敬嗣	1999	ポーリングコアから見た伊豆大島火山の発達史	月刊地球	x	○	c	○	D, F	○	x	○	x	-	
17-q	津久井雅志, 林 幸一郎, 齋藤公一逸	2006	伊豆大島火山地形と層序の再検討 -元町東マール・湯場マールの掘削とN1部層から886年新島向山テフラの検出-	日本火山学会 講演予稿集	○ (引用)	x	-	○	F	x	○	x	x	-	Nakamura(1964)引用
17-r	麻生弘幸	1988	伊豆大島の火山地質	熊本地学会誌	x	x	-	○	F	○	○	○	x	-	
17-s	須藤 茂, 猪股隆行, 佐々木 寿, 向山 栄	2007	わが国の降下火山灰データベース	地質調査研究報告	x	○	d	○	E	x	○	x	x	-	分布を引用し GISで算出
17-t	田沢 聖太郎	1980	カルデラ形成までの1万年間における伊豆大島火山の活動	火山	x	○	a	○	D	○	x	○	x	-	
17-u	気象庁 編	2013	58. 伊豆大島	日本活火山総覧 (第4版)	○ (引用)	○	c	○	D	x	○	○	○	-	小山・早川(1996)引用
17-v	町田 洋, 新井房夫	2011	新編 火山灰アトラス 日本列島とその周辺	東京大学出版会	x	○	a, c	○	A, B, C, D	○	○	○	○	-	
17-w															
17-x															
17-y															
17-z															

◎: 記載あり(優良)
○: 記載あり
(噴出量の対象)
●: 降下火砕物
■: 溶岩流
▲: 山体一括)

a: 地質調査
b: 地質図等
c: 引用
d: その他
e: 不明

A: 放射年代
B: 層序
C: 本文書記載
D: 引用
E: その他
F: 不明